



2025 年 **7 月 6 日(日)**
13:30~16:00

令和 7 年度 特別企画
事前勉強会

西の湖すてーしょん

〒521-1311 近江八幡市安土町下豊浦4187-3

参加者52名

講演会

「信長と天下布武」

第一部 元亀争乱

第二部 天下人の城 安土城



講師：まつした ひろし
松下 浩 氏

滋賀県文化スポーツ部文化財保護課
安土城・城郭調査係 副主幹

今回の講演会には市内外から多くの申し込みがありました。

織田信長の人気と、来年 2026 年に安土城築城 450 年を迎えるにあたり、関心の高さを感じました。

信長が足利義昭を伴い上洛してから、本能寺の変までの期間、「天下静謐」を掲げ活動していた様子を『信長公記』や、その他の文書を引用しながらお話しくださしました。

一部では、天下人である将軍 足利義昭の代理として天下静謐のための戦争を遂行していった『元亀争乱』について。

二部では、義昭と決別後、自身が天下人として天下静謐のため、天皇との結びつきを模索していった状況について。

詳しくは当日の資料をご覧ください。



質問タイム

講演会後の質疑応答では、参加者からの質問に丁寧に答えてくださいました。
以下に紹介いたします。

質問 1 安土城の設計について。築城の名人とされた藤堂高虎（滋賀県犬上郡出身）は関わっているか。

松下／ 当時秀長の家臣だったので、関わっているかもしれないが、記録はない。

記録に残っている中で有名なところは、全体の指揮をとっていた丹羽長秀。大工の岡部又右衛門（映画「火天の城」のモデル）。

質問 2 信長、安土城について宣教師が記録したものと日本側の記録の相違点について教えて欲しい。

松下／ 安土城に関しては宣教師側の資料に詳しく書かれている。

大きな相違点をあげるならば、信長の神格化。信長が自分を神として崇めさせようとしたかどうか。宣教師側の記録にはそのような記述があるが、日本側の記録（「信長公記」など）には、そのような記録はない。

安土城築城の際に、ご神体とする石を惣見寺に設置している。

本当に神になろうとしていたのか、表現上そのようになっているのか検討すべきところ。

